

会長就任にあたって

会長 佐野 幸吉*

俵先生を初め諸先生諸先輩が、お築きになつた立派な伝統と基盤をほこる日本鉄鋼協会会長の重責をになうこととなりましたことは、わたくしの身にあまる光栄と存じ、感激に堪えない次第であります。

今日は科学時代であり、技術革新の時代であるということは、暫らくいわれ続けてきたのでありますが、それにもかかわらず、なお科学技術は爆発的な進歩を続けているのであります。それらの中で、われわれの身近に特に著しく報道されるのは、宇宙科学であり、原子力の利用であり、エレクトロニクス等々であります。それらに共通するのは、数学の原理や法則の意識的適用であり、量子力学、統計力学を基礎とする原子科学や物性科学を、目的をもつて、意欲的に、独創的に総合したことにおける成功であると考えてるのであります。鉄鋼に関する科学技術もまた、このような革新の方法と無関係であるとは考えられません。

しかしながら、この時点において、国際的関連から、わが国の現状をひるがえつてみまして、是非ともやつておかなければならないと考えられますのは、創造的科学技術の開発を増加して、技術導入との比率を、逆転することです。そのためには、どのようなことがあるのでありましようか。

第一に、必要なことは、われわれの一人一人が、科学技術の創造ということに対して、執念と申しましようか、おう盛なる開発意欲をもつことが是非とも必要であります。少なくとも、そのような環境とか、雰囲気をつくり出すことが、大切であると考えてるのであります。

* 名古屋大学工学部教授 理博

次に、創造には直観が大切であるといわれますが、その直観も無から生れるものではありません。基本的体系の意欲的修練がなければ、直観も、したがって独創的な閃発計画も、出てこないのではないかと思うのであります。

さらに最近の技術革新の成功は、基礎科学の総合による場合が多いと考えるのでありますが、このためには専門を異にする多数の方々の協力が必要であります。自然科学における、基礎と応用との協力は勿論のこと、人文科学や社会科学についてまでも、広い共通の基盤を要求する、幾多の問題を考慮しなければなりません。

日本鉄鋼協会は、わが国の鉄鋼に関する科学技術の水準向上の責任をになうものと考えております。したがって、第一に創造意欲、第二に基礎科学の修練と総合、第三に多数関係者の協力等を、最も重要問題の中に、考慮すべきものとする次第であります。

会員の皆様の御理解と御協力をお願いして、わたくしの御挨拶といたします。